

《担当者名》○高橋祐司 吉田 繁 中野恵一（非） 太田 惣（非）

### 【概 要】

臨床検査学総論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基盤とし、実習を通じて一般検査に関する技術を習得する。本実習では一般検査の中でも臨床現場で頻繁におこなわれる尿、便、脳脊髄液の検査を中心に、自検体、模擬検体、患者検体を用いてその取扱方法や検査の種類や原理、注意点、臨床的意義を理解する。

### 【学修目標】

- 1) 先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけるために、臨床検査の基礎である一般検査法を修得する。
- 2) 尿の採取方法や取扱に関する注意点を説明できる。
- 3) 尿試験紙の取扱方法と注意点、精度管理の方法と意義について説明できる。
- 4) 各種尿検査の原理、臨床的意義について説明できる。
- 5) 尿自動分析装置の原理と有用性、注意点について説明できる。
- 6) その他（糞便、脳脊髄液）検体の取扱方法と各種検査の原理、臨床的意義について説明できる。

### 【学修内容】

| 回             | テーマ                               | 授業内容および学修課題                                                                                                                    | 担当者                  |
|---------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 1<br>)<br>3   | ガイダンス<br>マイクロピペット操作<br>器具洗浄       | ・実習室の使用についての注意事項<br>・マイクロピペットの使用法<br>キーワード：フォワード法、リピート法、リバース法、スタンダードプリコーション                                                    | 高橋祐司<br>吉田 繁         |
| 4<br>)<br>6   | 尿の性状検査と尿試験紙の取扱<br>腎機能検査<br>自動分析装置 | ・尿の採取と取扱方法<br>・尿の性状検査<br>・尿試験紙法の取扱法、精度管理<br>・尿自動分析装置<br>・腎機能の一般検査（尿比重、尿浸透圧）<br>キーワード：比重、屈折計、尿タンパク、精度管理                         | 高橋祐司<br>吉田 繁         |
| 7<br>)<br>9   | 尿蛋白検査                             | ・尿蛋白定性検査（試験紙法、スルホサリチル酸法）<br>・尿蛋白定量検査（ピロガールレッド法）<br>キーワード：蛋白誤差、等電点、定量検査、反応特異性                                                   | 高橋祐司<br>吉田 繁         |
| 10<br>)<br>12 | 尿糖検査<br>尿ビリルビン検査<br>尿ウロビリノゲン検査    | ・尿糖定性検査（試験紙法、ベネディクト法）<br>・尿ビリルビンの定性検査（ハリソン法）<br>・尿ウロビリノゲンの定性検査（ワーレス・ダイヤモンド法）<br>キーワード：還元糖、還元性物質、胆道閉塞、黄疸                        | 高橋祐司<br>吉田 繁         |
| 13<br>)<br>15 | 尿沈渣                               | ・尿沈渣標本の作製、観察<br>・尿沈渣標本の観察（正常検体、赤血球、白血球、細菌）<br>キーワード：S染色、尿細管上皮細胞、非系球体型赤血球、塩類                                                    | 高橋祐司<br>吉田 繁<br>中野恵一 |
| 16<br>)<br>18 | 尿沈渣                               | ・尿沈渣標本の観察（患者検体）<br>キーワード：細菌、円柱、異型細胞、卵円形脂肪体                                                                                     | 高橋祐司<br>吉田 繁<br>太田 惣 |
| 19<br>)<br>21 | 脳脊髄液検査<br>糞便検査                    | ・脳脊髄液の取扱法<br>・脳脊髄液の性状検査<br>・脳脊髄液細胞数の測定（フックス・ローゼンタール計算盤の使い方）<br>・便検体の採取法<br>・便潜血検査（イムノクロマト法）<br>キーワード：リコール、キサントクロミー、便潜血、酵素免疫測定法 | 高橋祐司<br>吉田 繁         |
| 22<br>)       | 実習総合指導                            | ・各回の実習内容についての解説<br>・病態と検査結果の解析と評価                                                                                              | 高橋祐司                 |

| 回  | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|-----|-------------|-----|
| 23 |     |             |     |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 40% レポート 60%

レポートは、目的、方法と材料、結果、考察、引用文献を必ず記載すること。実習により得られた結果に対して適切な考察を行い、関連する文献等の調査学習が行われているかを評価する。

【教科書】

三村邦裕 他 編集 「最新 臨床検査学講座 一般検査学 第1版」 医歯薬出版 2016年

【参考書】

伊藤機一 他 編集 「標準臨床検査学 臨床検査総論 第1版」 医学書院 2015年

日本臨床衛生検査技師会 監修 「一般検査技術教本」丸善出版 2017年

【備考】

レポート作成にはパソコンを用いること。レポートは、各テーマの最終実習日から2週間以内に電子ファイルを指定する宛先に提出し、印刷したレポートも次回実習時に提出すること（添削指導後に返却します）。

Google Form を利用して学修課題を提示する。

各回の実習時には班員と協力しグループディスカッションを行い、実習を進める。

【学修の準備】

実習書を配布するので、次回の実習範囲について事前に読んでおくこと（30分）。

また、キーワードを教科書などで調べておくこと（30分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

（DP4）臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

（DP6）臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

高橋祐司（臨床検査技師）、吉田 繁（臨床検査技師）、中野恵一（臨床検査技師）、太田 惣（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での経験を活かし、基本的な手技から得られた結果の解釈までを実践的に実習を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している